



## かわはく No.12

### CONTENTS

テーマ展示「今昔：荒川（隅田川）の名橋」	2
荒川の支流を訪ねる その2「入間川」プロローグ	4
今回の表紙写真は	4
川辺の生きもの百科 No2	5
ワークショップ「炭焼き体験」	5
身近な水紀行	6
かわはく日誌	7
教育普及活動のご案内	8



平成13年度第1回テーマ展示 荒川の名 会期：9月22日～12月9日

# 「今昔：荒川（隅田川）の名橋」

古来、川は道路よりも重要な交通・流通の手段でした。江戸・明治期の荒川も舟運が優先であり、荷船の運行を妨げる橋が技術的な問題もあって積極的に架けられることはありませんでした。鉄道の発達に伴い舟運が廃れると、対岸との交流は「渡し船」からより便利な「橋」へと代わりました。

今回の展示では、荒川(72橋)と隅田川(22橋)に架かる自動車道橋や歩道橋、そして幻の名橋についても写真で紹介しました。

い山々のV字谷を流れます。

本流では、吊橋の秩父湖橋、トラス橋のおおちゅうラーメン橋の万年橋などが注目されます。彩甲斐街道(国道140号)に架かる支流の橋についても紹介しました。アーチ橋のまめやき中津川大橋、トラス橋のかりさか雁坂大橋・しんゆうせん新遊仙大橋、ラーメン橋をループ状に巡回させた大滝大橋ととどろき甘六木大橋などが、深い山々に美しく調和しています。

## I 橋の型 - 景観に映えて -

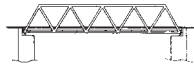
### 1. 桁橋

橋脚に桁を渡すもので、橋の95%がこの型です。



### 2. トラス橋

三角形の力を利用した型です。ちなみに雁坂大橋(右上写真)は上路式のトラス橋です。



### 3. アーチ橋

アーチの力を利用した型です。トラス橋と同様に路面の位置によって上路・中路・下路式があります。



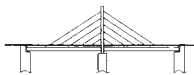
### 4. 吊橋

橋桁をケーブルによって吊り下げる型式です。長い距離を渡すことができるために、長大橋に採用されています。



### 5. 斜張橋

斜めに張ったケーブルで橋桁を吊る型式です。ケーブルの張り方が多様なため、デザインに幅を出すことができます。



### 6. ラーメン橋

橋桁と橋脚を一体化した強固な構造の橋です。「ラーメン」とは、枠・縁を意味するドイツ語です。



雁坂大橋：彩甲斐街道(国道140号)の最奥の橋です。

## 2. 河岸段丘域(秩父盆地域)

河岸段丘とは、河川が侵食を繰り返したことにより造り出された、階段状の地形をいいます。

当地域では、多様な橋群を見ることができます。アーチ橋の荒川橋や巴川橋、斜張橋の秩父公園橋や新秩父橋、力強いトラス橋の栗谷瀬橋が注目されます。また、昭和初期に架橋された古秩父橋や皆野橋は、優雅な雰囲気を漂わせています。更に、櫻橋と佐久良橋、武之鼻橋と秩父公園橋、新古の秩父橋など新旧の橋が並んで架けられているのもこの地域の特徴です。

旧橋では、木鉄混合トラス橋の初代荒川橋・親鼻橋や吊橋の白川橋・白鳥橋・寄居橋などが特筆されます。



栗谷瀬橋：トラス橋は力強さを感じさせてくれる橋です。

## II 今昔：荒川の名橋 - 記憶の中に -

### 1. 源流域(大滝村域)

甲武信ヶ岳の東側斜面に源流をもつ荒川は、険し



寄居橋：白色のアーチが静かな玉淀湖の湖面に映ります。

### 3. 扇状地域(寄居町から熊谷市域)

洪水によって土砂を運んだ荒川は、寄居町を基点にして扇形の堆積を繰り返します。

当地域では、ラーメン橋の熊谷大橋以外は全て桁橋ですが、両者の景観は酷似しています。なお押切橋は、県道に架かる橋としては最長を誇ります。また植松橋上流には、農業用水を取水する六堰と水管橋があります。六堰は、自動車も渡ることが出来ます。

旧橋では、荒川大橋のトラス橋のほか、花園橋や押切橋の冠水橋がありました。



大芦橋：広大な河川敷に20基の橋脚が整然と並んでいます

### 4. 人工河川域(熊谷市からさいたま市域)

江戸時代の初め、熊谷市を流れる荒川は、入間川水系へと運河が掘られ流路を変えました。本流域は、多くの堤防(横堤・円堤)が築かれています。冠水橋以外は、多くの橋脚を並べた桁橋です。なお新上江橋は、県内最長の橋です。

旧橋では、治水橋・上江橋のトラス橋が特筆されます。それ以前は「渡し船」が兩岸を結んでいました。



くげ橋：下流に新橋を架橋中です。本橋はまもなく消滅する運命にあります。

### 5. 都市河川域(さいたま市から河口域)

本地域は、秋ヶ瀬取水堰から大正13年に掘削された「荒川放水路」の流域に亘ります。潮の満ち引きの影響を受ける地域でもあります。

桁橋が主流ですが斜張橋の幸魂大橋、アーチ橋の江北橋や四ツ木橋、トラス橋の木根川橋、吊橋の葛西橋などの名橋が見られます。旧放水路の橋は、全て初代の橋です。

旧橋では、中山道(国道17号)に架かるトラスの戸田橋が、名橋と唱われました。架橋以前は、「渡し船」が兩岸を結ぶ交流手段でした。



幸魂大橋：洪水調水池：彩湖に外環自動車道として架けられています。

### III 今昔：隅田川の名橋

隅田川は、岩淵水門(東京都北区)で荒川から切り離されました。隅田川の堤防は、垂直な絶壁護岸ですが、川辺の一部は公園として整備されています。

隅田川には、「橋の博物館」と呼ばれるほど数々の名橋が架けられています。男性的なアーチ橋の千住大橋・白髭橋・永代橋、女性的な吊橋の清洲橋、優雅な斜張橋の中央大橋や新大橋などが注目されます。また、昭和初期に架けられた言問橋・駒形橋・蔵前橋・清洲橋なども健在です。桜橋は、隅田川唯一の歩道橋です。

文禄3(1594)年、隅田川に最初に架けられた千住大橋をはじめ、江戸時代には吾妻橋(大川橋)・両国橋・新大橋・永代橋の江戸五橋がありました。これらの橋は、四季の風景と共に多くの浮世絵に描かれました。(中村倉司)



清洲橋：緩やかな曲線美を持つ本橋は、隅田川第一の美橋と評されています。



# 荒川の支流を訪ねる —その2— 『入間川』 プロローグ

荒川最大の支流といえば、それは「入間川」、ということでおおかた異存はないと思います。全長51.27km、流域面積689.39㎢で、流域市町村の数は18にも及びます。広大な流域面積を持つ入間川なのですが、荒川との関わり、つまり入間川が荒川の支流となった歴史は意外に浅いのです。

1629年(寛永6年)に伊奈氏によって著名な「荒川の瀬替え」が行われます。それまで荒川は、大宮台地の東縁を沿うように流れていました。「元」の名の示すとおり、現在は中川水系に属する元荒川の流路がそれです。その荒川を熊谷市久下におきまして、大工事の末、現在の流路へと付け替えました。その結果、荒川は大宮台地の西縁を流れるようになりました。

では、現在の荒川が流れている場所の以前の状況はどうだったのでしょうか。むろん台地や丘陵だっ

たわけではありません。そこには、中小の河川が流れ、それらの中小河川を集め集めて、荒川とは関わりのない独立した水系が形成されていました。つまり、主に外秩父山地を水源とした一大河川群が形づくられ、それは入間川を中心としたまさに入間川水系と呼べる大水系でした。

そうした環境の中で、入間川筋に属する市野川の支流の吉野川に、荒川を付け替えたのでした。

こうして見てきますと、いまでこそ荒川の支流となっている入間川ですが、むしろ荒川のほうが入間川にやってきた、といった印象がしてしまいます。というわけで、今日入間川の終点は、川越市古谷における荒川との合流点ということになっていますが、この合流点から源流までを、次号から前後2回にわたって訪ねてみたいと思います。お楽しみに。

(伴瀬宗一)



荒川の瀬替え以前を解説する伊奈人形 (第1展示室)



襖が開くと瀬替え後になる。伊奈人形の口上は続く。



## 今回の表紙写真はセイタカスギゴケです

さいたま川の博物館では、荒川の源流域状況調査を毎年実施しています。平成13年も10月11~12日にかけて調査を実施しました。甲武信岳のふもとから流れ出す、荒川の源流付近には、亜高山帯のシラビソ・オオシラビソ・コメツガ・トウヒなどからなる針葉樹の原生林が広がっています。これら針葉樹林の林床には蘚苔(せんたい)類(スギゴケやゼニゴケなどの仲間、以下コケと標記)が繁茂しマット状になっています。今回の調査では、荒川の源流域のコケについても予察的に調べてみました。写真のセイタカスギゴケは、亜高山の針葉樹林の床に大き

な群落を作る種類で、荒川源流の碑付近で撮影したものです。

コケはシダ植物や種子植物と違い、根のように見えるものは仮根(かこん)と呼ばれ水や養分を吸い取る機能はありません。そのため、雨や空中の水分を吸収し、養分も吸収しているのです。荒川源流付近の針葉樹の原生林は常緑樹が多く、一年を通じて空中湿度がある程度保たれているため、コケの生育に適しており、たくさんの種類のコケが繁茂しています。

(楡井 尊)



# 川辺の生き物百科

No.2

オニグルミ（鬼胡桃）クルミ科  
JuglansmandshuricaMaxim.ver.sachalinensis

当館のシンボル大水車の東側、宮川を見下ろす位置にオニグルミの大木があります。この木はおそらくずっと以前からこの土地に自生していたと思われます。高さ20mを越すほどに成長する落葉高木ですが、台風の大風か落雷か、幹の中心部地上8mほどのところに大きな傷跡があります。しかし毎年夏が過ぎるころになると鈴なりに実を付け、秋が深まる頃木の下は果実で覆われます。果実は大きくて褐色の毛が密生し、中に先のとがった大きな核があり種子を包んでいます。核の殻を割ると子葉の部分が食用となります。これから冬に向かって、ニホンリス、アカネズミ、ハシボソガラスなど多くの生き物の大切な食物です。人間が普通クルミとしてよく食べるのはカシグルミ(J.regiaL.ヨーロッパ東部、西アジア原産)で、日本でも長野県などで栽培されています。建築材や工芸品にも使われ、皮からは染料も取れます。いかつい凹凸のある殻を持ち大型なので「鬼」がついたのでしょうか。（小島明夫）



## ワークショップ「炭焼き体験」参加者大募集!!!

炭窯造りから炭焼きまで（黒炭を焼いちゃうよ~!!）

かつて日本では、森林を守り育て、自然とともに生きる術として、盛んに炭焼きが行われてきました。木炭は、石油を中心とした化石燃料の普及で、一時需要が減少しましたが、近年になってさまざまな能力が見直され、炭焼きによる森林保護も注目されるようになりました。

木炭は多くの管を束ねたような構造をしています。細いたくさんの管は、水の汚れや空気中のおいのもとを吸い付ける働きをし、川の水や空気の浄化に役立っています。最近では、木炭の管の中に微生物を住まわせ、重金属さえ分解できるようになりました。このほか、インテリアやアクセサリに使われることもあります。

さいたま川の博物館では、来る平成14年3月16日(土)から、木炭をとりあげたテーマ展示「炭~いまを生きる知恵とちから~」を開催します。また、自然の豊かさを肌で感じ、自然とともに生きる体験の

ひとつとして、ワークショップ「炭焼き体験~炭窯造りから炭焼きまで~」を行います。

ワークショップの参加資格は、小学5年生以上の方。20名くらいで行います。体験の日時は、2月9日から隔週土曜の4日程度。参加費は無料ですが各日100円の保険料が必要です。

詳しくは、さいたま川の博物館学芸部までお問い合わせください。☎048-581-8739（岩田明弘）





## 岩の隙間から湧き出す不動の名水

武甲山を左手に見ながら、国道140号線を秩父市街から大滝方面に向かって走ると、国道は浦山川を渡るために、荒川村との境付近から下り坂となって大きく右にカーブしています。その途中左手にはセブンイレブンがあり、秩父鉄道浦山口駅への進入路にあたる村道が接続しています。ここを左折して直進すると、直ぐ左手に1間四方の小さな建物が目に入ってきます。荒川村大字久那の鎮守である不動尊です。不動尊は、村道よりも一段高いところに鎮座し、その山側には武甲山の急斜面が接近しています。そして、不動の名水は、不動尊に見守られるようにその直ぐ前で湧き出しています。



この地は、武甲山の南西斜面にあたり、わずかな平地が広がっているところです。平地の直ぐ上には、秩父鉄道が武甲山の斜面を切り開いて走っています。この秩父鉄道の線路を保護する石垣が斜面に沿って積み、石垣は地中の岩盤に届いています。不動の名水は、秩父鉄道の線路を保護する石垣の下にある岩盤の隙間から湧出している水で、地表に露出した岩盤の隙間からは、絶え間なく幾筋もの清らかな水が湧き出しています。この水が崖下の細い水路を通して不動尊の直ぐ前に流れ出ているのです。地元では、こうして湧き出る水を「武甲山の裾水」と呼んでいます。

不動尊を管理している山川さんによると、秩父でひどい渇水になっても不動の名水が潤れたことはなかったといい、この水はあまく、お茶やコーヒーに適していて、これを飲んだら他の水は飲めないと自慢しています。現に、この水を求めて遠方からも多くの人々が訪ねて来ています。不動尊の門前には雑記帳が用意され、もらい水に来た人々が自由に記帳しています。そのノートを見ると、秩父郡内だけで

はなく、遠く群馬県の前橋市や富岡市、東京都練馬区などからも訪れています。埼玉県内では、さいたま市をはじめ、上尾市・富士見市・飯能市・本庄市・春日部市などからも訪れています。そして、この名水に対する思いが綴られ、「今年もおいしい水をありがとう。うまい水またもらいに来ます。」とか「川越から今日も参りました。いつもおいしい水をありがとうございます。いつまでもこれからも大切にしたい水です。」など、感謝の気持ちを率直に表現しています。

ちなみに、不動尊を過ぎて間もなく、秩父鉄道が通るガードの手前を右折して急な坂道を登ると、秩父鉄道浦山口駅に到着します。不動尊は、浦山口駅から約200m程の至近な所に立地しているのです。浦山口駅を観光の起点とする人々にとっては、渇いた喉を潤す格好の休息地で、古くから多くの旅人に親しまれる環境が整っていたのです。

また、湧水のすぐ脇には「不動名水の碑」が建てられています。昭和63年に造立されたもので、この水と不動尊の由緒を「武甲山塊の地中深く流れる水は、此処に湧出して清流となり、古くから住民の生活を成り立たせ、旅人の渇えをいやし、人々に多大な恩恵を与え続けて来た。清冽な此の水は、如何なる日照りにも涸れる事無く、又打続く長雨にも濁る事を知らないと云う。然し言伝によれば、過去の大地震の前にも此の水が必ず白濁したと伝えられる。古人は此処に社を建て、不動尊を祀り付近の鎮守とした。其の社は古く江戸時代の久那村の地図にもしるされている。」と伝えてあります。この水は地域住民の生活を支える水として古くから利用され、水の守り神として先人が不動尊を祀ったことがわかります。

(沼野 勉)





# かわはく日誌

7月1日～10月31日

- 7月4日(水)～6日(金) 行田進修館高校生徒による博物館就業体験(5人)
- 7月7日(土)～8日(日) 川の日記念イベント「七夕づくり」短冊に願い事を書いてさきの葉に結びつける伝統的な七夕行事(197人)(494人)
- 7月8日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」(84人)
- 7月14日(土) 子ども放送局「チャレンジ教室」など(20人)、土曜おもしろ博物館「川の魚を観察しよう」(78人)
- 7月15日(日) シネマかわはく「みなしごハッチ」(125人)
- 7月17日(火)～19日(木) 学芸員実習「館長講話／博物館の管理運営／情報システムの管理と運営／体験学習の企画と立案」など
- 7月20日(金)～9月9日(日) 特別展「体感！溪流釣りーさかなの秘密・道具の科学ー」開催
- 7月21日(土) カワシロウ講座「荒川流域のビオトープ」講師：新井裕氏(むさしの里研究会代表)(35人)
- 7月24日(火)～26日(木) 学芸員実習「情報化の実践作業／体験学習の実践活動／資料取り扱い実習／展示プランの企画と立案など
- 7月28日(土) 子ども放送局「自然は友だち～わんぱく元気スクール～」など(38人)
- 7月28日(土) 学芸職員による「ガリバーウォーク」(52人)
- 7月29日(日) 荒川劇場「川と太鼓」石尊太鼓保存会(寄居町)による太鼓の実演(205人)
- 7月30日(月) 利用促進研修会 小中学校の教員等を対象とした当館を有効に利用するための研修会(63人)
- 7月31日(火) 学芸員実習「資料の梱包実習／情報化成果の発表会」など
- 8月1日(水) 水の日記念イベント「おいしい水を調べよう」(81人)
- 8月3日(金) 特別展ワークショップ「溪流釣りであそぼう！」(24人)
- 8月4日(土) かわはく夏祭り、利き水・シャボン玉・的当てゲーム・工作教室・バンド演奏など(3371人)
- 8月5日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」(81人)
- 8月7日(火)～10日(金) 川と水の体験スクール「魚取り体験／荒川の生物調査／川辺の草花あそび／石と木の工作教室／荒川の中洲探検／気球で荒川観察／水質調査／水車をつくる」など
- 8月11日(土) 子ども放送局「まるかじり自然体験！」ほか(42人)

- 8月18日(土) 特別展ワークショップ「だれでもできる楽しい脈釣り」(16人)
- 8月19日(日) シネマかわはく「ジャングル大帝」(128人)
- 8月25日(土) 子ども放送局「だれでもできる魚のおうち」ほか(11人)
- 8月25日(土) 特別展ワークショップ「初心者のためのトレンド釣法」(27人)、学芸職員による「ガリバーウォーク」(36人)
- 8月26日(日) 荒川劇場「川と民謡」塗民謡会(秩父市)による荒川にまつわる民謡の披露(230人)
- 9月2日(日) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(20人)、カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」(60人)
- 9月8日(土) 土曜おもしろ博物館「川原でバッタやトンボを観察しよう」(71人)、子ども放送局「夢スタジオ1030晴れ時々お天気おねえさん」ほか(47人)
- 9月16日(日) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(72人)、シネマかわはく「ガンバとカワウソの冒険」(27人)
- 9月22日(土)～12月9日(日) テーマ展示「荒川之美ー今昔：荒川(隅田川)の名橋ー」開催
- 9月22日(土) 学芸職員による「ガリバーウォーク」(22人)、子ども放送局「夢スタジオ1030」ほか(9人)
- 9月23日(日) カワシロウ講座「荒川の生業」講師：小林茂氏(県文化財保護審議会委員)(25人)
- 9月30日(日) ボランティアによる「ガリバーウォーク」(70人)
- 10月6日(土) 土曜おもしろ博物館「草木染めにチャレンジ」(65人)
- 10月7日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」(68人)
- ボランティアによる「ガリバーウォーク」(72人)
- 10月13日(土) 子ども放送局「夢スタジオ1030スポーツメジャーリーグ流トレーニング」ほか(5人)、ボランティアによる「ガリバーウォーク」(24人)
- 10月14日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」(31人)
- 荒川劇場「川と子どもたち」寄居中学校プラスバンド部(寄居町)による演奏(128人)
- ボランティアによる「ガリバーウォーク」(72人)
- 10月21日(日) 野外教室「荒川を歩くⅦ」(30人)、シネマかわはく「トム・ソーヤの冒険ー冒険・冒険・また冒険ー」(44人)
- 10月27日(土) 子ども放送局「夢スタジオ1030」ほか(16人)
- 10月28日(日) カワシロウ講座「元荒川源流付近を訪ねる(現地見学)」講師：榎井尊(さいたま川の博物館主任学芸員)(17人)

開館以来の入館者数 116万4,539人

(10月末現在)

# 教育普及活動のご案内 ー楽しく、ためになる「かわはく」ー

## ■11月

- 4日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」  
10日(土) 土曜おもしろ博物館「草の実であそぼう」☎  
11日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」  
14日(水) 県民の日記念イベント、ペーゴマ・シャボン玉・工作教室・オリエンテーリング、全館ライトアップなどのイベント（一部に定員があります・先着順）  
18日(日) シネマかわはく「トム・ソーヤの冒険ーあこがれの蒸気船ー」  
24日(土) 学芸職員による「ガリバーウォーク」  
25日(日) カワシロウ講座「農業水利ー田畑を潤す水の循環ー」☎

## ■12月

- 2日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」  
8日(土) 土曜おもしろ博物館「砂絵を描こう」☎  
9日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」  
**身近な環境学習講座～水環境を考える～**

- 16日(日) 第1回「水はどこからやってくる?」「地球をめぐる水」他～身近な水から地球規模の水循環まで～  
22日(土) 第2回「GISから流域を読む」「空中写真から流域を読む」他～水環境の捉え方を紹介する実習～  
23日(日) 第3回「和田川・和田吉野川流域の観察」～貸切バスで流域の水環境と人々の暮らしを訪ねる～

- 16日(日) シネマかわはく「せんぼんまつばら」濃尾平野の治水工事に携わった薩摩藩の苦労を伝える堤に植えられた松原の物語  
22日(土)～2月3日(日)  
絵画作品展「第2回子どもが描く荒川の絵画作品」  
22日(土) 学芸職員による「ガリバーウォーク」

## ■1月

### 学芸員の荒川新発見講座

- 1月27日(日) 「荒川舟運の復権を探るⅠ」  
舟運が首都圏における新しい交通手段として復活するかその可能性を探ります。☎  
2月24日(日) 「荒川舟運の復権を探るⅡ」  
現地見学（川口から岩淵水門まで）荒川に設けられたリバーステーションなどを見学します。☎  
3月23日(土) 「川が作った埼玉の大地」☎  
6日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」  
12日(土) 土曜おもしろ博物館「ストーンペインティ

### ングに挑戦」☎

- 13日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」  
20日(日) シネマかわはく「長江悠々」三峡ダムに沈む村や文化財の姿と人々のルポルタージュ  
27日(日) 学芸職員による「ガリバーウォーク」

## ■2月

- 3日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」  
9日(土)～3月3日(日)  
写真展「第21回川の写真コンクール入選作品」  
9日(土) 土曜おもしろ博物館「冬の使者「白鳥」をみよう」☎  
10日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」  
17日(日) シネマかわはく「走れ白いオオカミ」雄大な自然を舞台にした人間と動物とのふれあいの物語  
23日(土) 学芸職員による「ガリバーウォーク」

## ■3月

- 3日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」  
9日(土) 土曜おもしろ博物館「身近な水を調べよう」☎  
10日(日) カワシロウのエコショップ「水圧を調べる」  
16日(土) テーマ展示オープン「荒川と人々の暮らし」  
17日(日) シネマかわはく「三ねん寝太郎」怠け者寝太郎が湖から水を引く用水路を完成させる物語  
21日(木) 川の音コンサート  
23日(土) 学芸職員による「ガリバーウォーク」

！原則として、毎月第2土曜日10:30～と14:40～は「土曜おもしろ博物館」・第3日曜日13:30～は「シネマかわはく（映画会）」が開かれます。都合により変更となる場合があります。最新情報は彩の国だより等で紹介されています。

参加はどれも無料で、定員になりしだい締め切ります。

インターネットでも情報が紹介されています！

<http://www.kumagaya.or.jp/~kawahaku/index.html>!

【お願い】①行事は都合により変更になることもあります。ご了承ください。②☎印のついた行事は、電話もしくは、Faxで原則として実施月の1日からお申し込みください。③川の情報もお寄せください。

### ■編集・発行

## さいたま川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39  
TEL048-581-7333(庶務)、8739(学芸)/FAX048-581-7332  
2001年11月30日発行